

日銀の視点

わが国経済の今後を見通す上で重要なのが設備投資の動向です。そこで4月に公表した日銀の「4月レポート」では、「各地域における地場企業の設備投資動向」について取りまごめました。

概要を紹介すると、最近の新興国経済の減速などを受け、当面の投資額を減額する動きが一部に見られ始めているほか、依然として抑制的な投資姿勢を続ける先も少なからず見られました。県内でも、製造業の一部では海外需要の下振れなどを踏まえ、投資を抑制する

片桐 正志

日銀調査統計局
地域経済調査課企画役

設備投資、多様化進む

先が見られます。

このような慎重姿勢の背景として、先行きの不透明感の高まりなどに加え、期待成長率が低い下で投資の必要性が低いと

先が見られます。更新投資や能力増強投資のほか、それ以外にも多様な形での前向きな投資が踏み切っているとの声も数多く聞かれています。

さらに、これまで投資を見送ってきた中小企業を含め、各種補助金や設備投資促進税制を活用して、維持・更新投資や効率化投資などに踏み切る

の開発投資、生活支接口ボットの需要創出に向けた新拠点の建設など、成長が期待される分野での投資に取り組む動きが見られています。

でも稼働に必要な人手を確保できないなどの事情も含まれています。

農業など成長分野の強化に向けた投資②深刻化する人手不足に対応する

動きも広がっています。県内でも、例えば、衣料販売で若者中心からファミリー層への顧客層の拡大を企図した新規出店や

金融機関などによる各種支援を一段と強化することも必要との指摘が聞かれています。

こうした一方で、多くの先では、近年の収益改善に加え、緩和的な金融環境もあって、国内で設備投資を増額している状況にあります。具体的

④訪日外国人需要の取り込みに向けたホテルや商業施設の新設・改装など

関連の受注獲得を目指した加工・計測機器等の導入、農業分野の強化に向けた野菜栽培工場用照明

詳しくは日銀のホームページをご覧ください。
<http://www.boj.or.jp/research/brp/rbr/>

(第2土曜掲載)